

整形外科後期研修プログラム（専門医過程）

〔目的〕

運動器救急疾患・外傷に対応できる診療能力を修得する。救急疾患の実例として、骨折、関節の脱臼および靭帯損傷などの外傷の治療、開放骨折、指切断、急性脊椎脊髄損傷などの救急疾患への対応についての診断・治療技術の理解を深める。また、本格的な高齢化社会の到来に伴い増加の一途をたどる運動器慢性疾患（変形性関節症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、頸髄圧迫症、骨粗鬆症等）の重要性と特殊性について理解し、疾患の病態、診断および治療についての治療体系の基本を習得し、検査手技や手術方法について習熟する。肩、肘、膝、足関節におけるスポーツ障害（野球障害肩、膝半月板・靭帯損傷等）に対して、当科で積極的に施行している内視鏡手術を学ぶ。

上記に掲げた全ての整形外科関連の知識および技量をもって最終的には、整形外科専門医の獲得を目指す。

専門医受験資格：日本整形外科学会会員でかつ 6 年間会員であり続けること。また、研修期間中に日本整形外科学会が規定している研修単位を全て修得していること。この 2 つの項目を満たしていること。

〔指導医〕

責任者：山本謙吾（整形外科主任教授）

統括指導者：高瀬勝己（整形外科講師）、香取庸一（整形外科医局長）

指導者：整形外科医局員

〔研修内容〕

後期研修医として東京医科大学病院に入職

東京医科大学整形外科学教室に在籍

入職時期：各年度 4 月あるいは 5 月（初期研修病院により異なる）

研修期間は原則として 4 年間

初期 3 年間は東京医科大学病院後期研修医であるが、後期研修終了後の 1 年は東京医科大学病院職員（整形外科学講座入局）の身分にて勤務。研修期間終了後は、各自の希望を考慮して東京医科大学病院職員（臨床研究医あるいは整形外科助手）、各教室関連病院の整形外科医員として勤務。

入職後 2 年間は東京医科大学病院での研修を行なう。

脊椎班、外傷班、関節班、腫瘍班の 4 班を 2 年間で均等に研修を行なう。班内における主治医を中心としたグループの一員として診療を行なう。

また、整形外科と関連の深い運動器リハビリテーションの研修として成人リハビリ（東京

医科大学病院)、小児リハビリ(長野県信濃医療福祉センター)での研修を各1ヶ月間行なう。

【初期2年間の研修予定】

1年目

関節班(5ヶ月)	腫瘍班(5ヶ月)	成人リハビリ(2ヶ月)
----------	----------	-------------

2年目

脊椎班(5ヶ月)	外傷班(5ヶ月)	小児リハビリ(2ヶ月)
----------	----------	-------------

関節鏡手技習得のために、上肢関節鏡手技および下肢関節鏡手技の研修として各1ヶ月間を集中的に行なう。(本研修は関節班で行なうが関節班研修とは別に行なう)

東京医科大学病院2年研修終了後は、一般専門医コースとして、さらに2年間専門医受験資格が得られるよう、教室関連病院を中心に、大学病院もしくは大学関連病院(東京医大霞ヶ浦病院、東京医大八王子医療センター)での研修を行なう。関連病院では、各病院整形外科部長のもとで研修医自身が主治医として患者の治療方針を決定し治療を行なう。また、外来では治療を行なった患者に対しての治療経過観察を責任もって行なう。関連病院、一般専門医コースの代表的研修内容を例示する。

関連病院

- 都立大塚病院(東京都)
- 社保蒲田総合病院(東京都)
- 蕨市立病院(埼玉県蕨市)
- 戸田中央総合病院(埼玉県戸田市)
- 多摩丘陵病院(東京都)
- 所記念病院(静岡県熱海市)
- 右田病院(東京都)
- 昭島病院(東京都)

【一般専門医コース】

3年目

東京医大関連病院での研修(1年間)

4年目

東京医大八王子医療センター(6ヶ月)	大学病院(6ヶ月)
--------------------	-----------

また、一般専門医コース以外に、3つの専門医コースを選択することができ、その専門分野の疾患を中心に実践的な研修を行う。さらに、その中でオプション(腫瘍班、リハビリテ

ーション科、救命救急、海外研修病院など)として短期間(3ヶ月程度)の研修の選択も可能である。なお、3つの専門医コースを選択しても専門医所得可能である。

【外傷専門医コース】

主な指導者: 諸橋 彰(整形外科助手)、中谷 知薫(整形外科助手)

プログラムの概要(目標、特色など)

運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的な初期診療能力を修得します。救急疾患の実例として、骨折、関節の脱臼および靭帯損傷などの外傷の初期治療、開放骨折、指切断などの救急疾患への対応についての基本的な診断・治療技術の理解を深める事を目標とします。

具体的には、鋼線牽引や創外固定法など外傷の初期治療法を習得し、理論に基づいたプランを建てられること、手術では指導医のもと基本的な四肢骨折の整復固定術や腱縫合術などの執刀、術後療法を指導します。保存的治療では、ギブス固定や装具療法の理解と実践を目標とします。

【関節外科専門医コース】

主な指導者: 穴戸孝明(整形外科講師)、正岡利紀(整形外科助手)

プログラムの概要(目標、特色など)

慢性関節疾患・先天性関節疾患・関節周囲の外傷・スポーツ障害など関節疾患全般に対する専門的な知識・技術の習得を目標とします。各疾患に対し当科独自の診療プロトコールに従い研修し、手術では人工関節手術・靭帯再建手術・関節鏡手術などを指導医のもと正しい手技で行なうことができるように指導します。

【脊椎外科専門医コース】

主な指導者: 駒形正志(整形外科助教授)、田中恵(整形外科講師)

プログラムの概要(目標、特色など)

日本社会の高齢化に伴い、脊椎疾患の患者数、手術件数は年々増加傾向をたどっております。当科では、腰痛、頸部痛のスポーツ外傷、脊髄損傷、脊髄腫瘍から腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症など幅広い脊椎疾患を手術、内視鏡、装具などを使用して治療しており、都内の大学病院では常にトップクラスの手術件数を誇ります。各施設において脊椎と脊髄の基礎を、また脊髄損傷に対する急性期処置、脊椎手術の展開、術後療法を徹底的に指導します。

代表的な研修内容を例示する

【外傷専門医コース】

3年目

東京医大関連病院もしくは海外研修病院（外傷疾患を主体とする病院）での研修（1年間）

4年目

救急救命（3ヶ月）

外傷班（大学病院）